

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 27日は、沿海州付近の低気圧が北東へ進み、この低気圧からのびる前線が日本付近を通過する。東海道沖では、この前線上に別の低気圧が発生し、三陸沖を北上する。また、日本海西部でも別の低気圧が発生し、北東進する。
- 28日から29日にかけては、沿海州付近の低気圧と三陸沖の低気圧は、日本海西部で発生した低気圧とまとまりつつ、発達しながらオホーツク海へ進む。
- 30日から12月1日にかけて、低気圧がオホーツク海を北へ進む。日本海は気圧の谷となり、12月1日には低気圧となって北日本付近へ進む。また、大陸の高気圧が西日本付近まで張り出してくる。

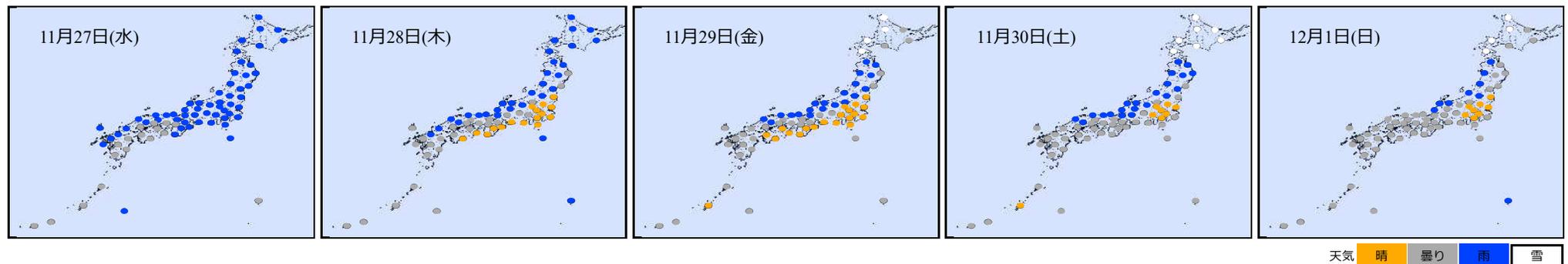
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 27日から29日にかけて、日本付近を通過する前線や低気圧の影響で、北日本と東・西日本日本海側を中心に荒れた天気となる。低気圧の発達程度等によっては、大荒れや大しけとなるおそれがある。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

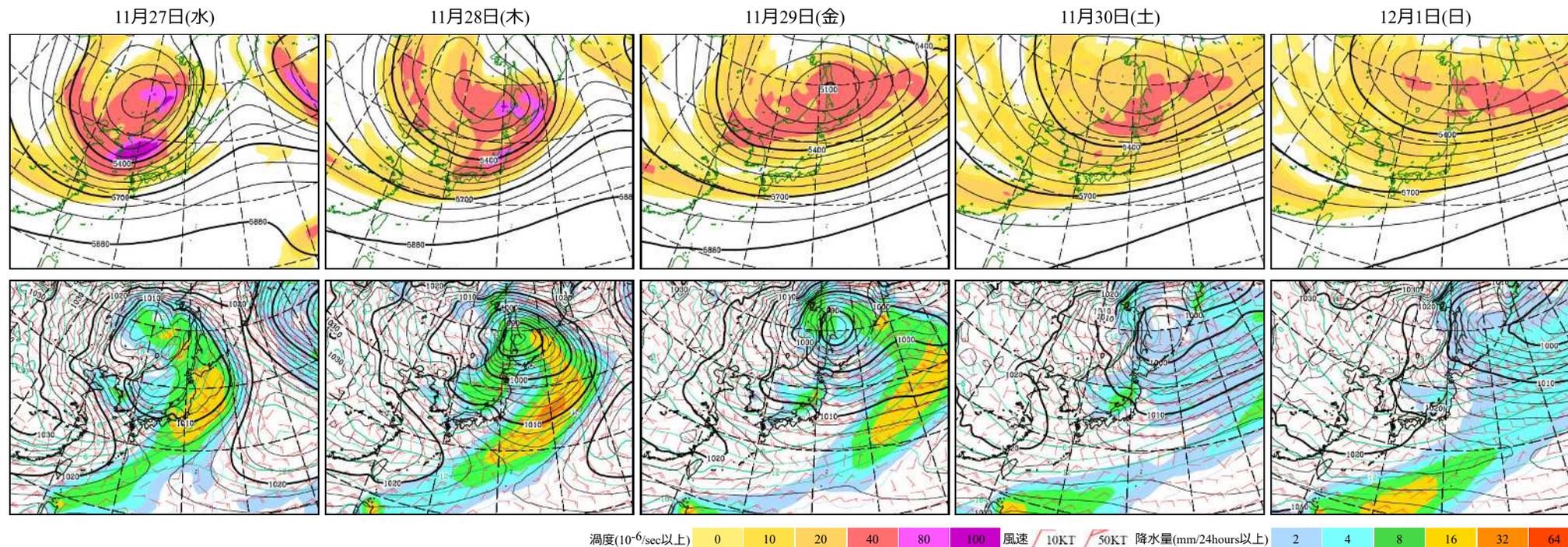
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

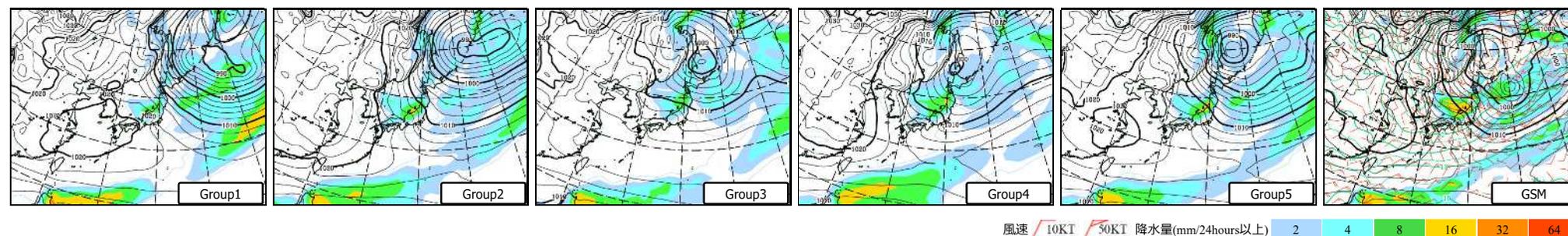


- 北日本と東・西日本日本海側は、晴れる所もあるが、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、27日は雨が降る。28日から12月1日は晴れる所が多い。
- 西日本太平洋側は、雲が広がりやすいが、28日から29日は晴れる所が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月30日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、27日以降、中国東北区～サハリン付近の寒冷渦が前日よりやや南よりに位置する予想となり、日本付近の高度が下がった。地上の気圧配置の予想は、高・低気圧の位置に大きな違いはないが、日本付近を通る低気圧がより発達する予想となった。
- 降水確率ガイダンスは、大きな初期値変わりはない。
- 各モデルとも、28日以降は中国東北区の寒冷渦の位置が前日資料よりも南よりに変わる初期値がみられる。地上の気圧配置は28日まではモデル間の差は小さいが、30日以降はモデル間の差が大きくなった。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。